



介護の手

—ケアマネジャーという仕事—

高齢者を支える手のひとつに、ケアマネジャー（介護支援専門員）という仕事があります。ケアマネジャーは国家資格ではありませんが、基礎資格がないとつけない職業です。一口に「介護職」と言ってもさまざまな職業がある中、ケアマネジャーはどのような役割を持っているのでしょうか。今号では、ケアマネジャーという視点から介護を支える現場に迫ります。

住み慣れた家で介護を受ける

心身の機能低下により介護や支援が必要になると、どこで介護を受けるか選択する必要があります。介護が必要な方の中には、住み慣れた自宅でも少しでも長く生活したいと感じる人も多くいます。在宅で介護を受ける場合、介護認定を申請することで介護の必要に応じて介護保険のサービスを利用することができます。在宅で利用できるサービスは、主に身の回りのことを手伝うヘルパー、施設に通って生活支援や機能訓練を受けるデイサービス、施設に泊まって介護を受けるショートステイなどがあり、これらを有効に活用することで在宅介護の負担を軽減することができます。

在宅介護の調整役

「ケアマネジャー」

こうした介護サービスに関する相談や自宅生活における介護の悩み相談などを行うのがケアマネジャーです。

近年では、一人暮らしの高齢者も増

えており、一人ひとりの状況にあわせて関わり方が必要になってきています。

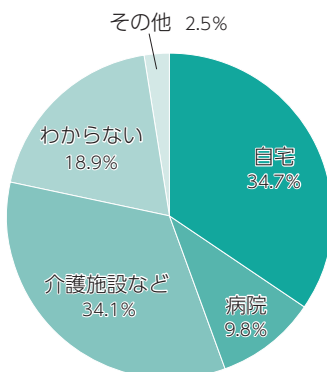
また在宅介護でサービスを受けるにあたって、ケアマネジャーは本人とサービス提供者をつなぐ調整役となります。在宅介護の需要が高まる今、ケアマネジャーの必要性が再度叫ばれています。

介護に関する情報収集方法

(重複回答あり)

ケアマネジャーに相談	60.5%
市役所の配布物など	27.1%
地域包括支援センターでの相談	17.8%
広報紙	11.0%
市役所での相談	8.0%
ホームページ	1.7%
□コミ	16.3%

将来介護を受けたい場所



資料：東三河広域連合「高齢者等実態把握調査」（令和元年）